支援物資でつながる「絆」

Free Market ボランティアの声

友人も被災しているなか、何もしないことが耐えられませんでした。高校生でもできることがありうれしかったです。

最初のころは本当に暑くて倒れるかと思ったこともありましたが、被災者の「ありがとう」、「助かる」の言葉が原動力になりました。

（光籏郁海さん）

「何かしなければ」との気持ちで参加しました。全国からたくさんの物資が届き、目が回るような忙しさでしたが、「被災者のもとに届けたい」との思いで仕分けをがんばりました。

大変でしたが、「本当に助かりました」の言葉でがんばることができました。

（平田恵子さん）

ありがとう

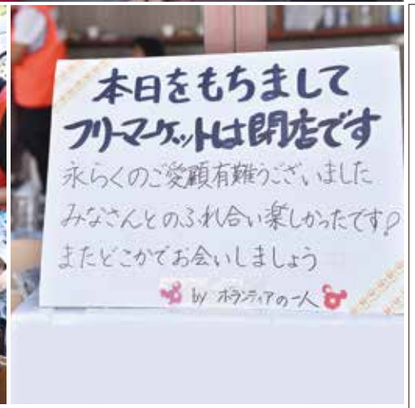
支援物資フリーマーケット

10/1 フィナーレ

西日本豪雨の発災以降、市役所南側車庫に開設していた支援物資のフリーマーケットは、10月上旬に市内の仮設住宅が全て完成するめどが立ったことから、10月1日で終了。約3カ月に及んだ総社流支援物資の提供は幕を閉じました。

最終日には、フリーマーケットに携わっていただいた全ての人に感謝の気持ちを込めて、総合福祉センター前で「フリマ感謝の集い」を開催。市長らが支援に携わったボランティアをねぎらいました。このほか会場では、9月2日に開催された西日本豪雨復興支援チャリティーコンサートのメンバーによる演奏が行われたり、倉敷市の老舗旅館による炊き出しが振る舞われたりしました。

フリーマーケットは、約5200人のボランティアと1万1000人の物資提供者の協力により、延べ7万人を超える被災者の生活を支えてきました。支援していただいた皆さまに、心よりお礼申し上げます。余った物資は被災者支援の観点から、支援団体などに届けさせていただきます。ご了承ください。



北海道胆振東部地震

災害支援

助け、助けられ

総社市は、9月6日に発生した北海道胆振（いぶり）東部地震の被災地である苫小牧市に支援物資を送りました。物資は市の災害用毛布1000枚です。

支援は県トラック協会総社分会の協力により実施。毛布を積んだトラックは7日朝に総社市役所を出発し、陸路と海路で苫小牧市役所まで運びました。苫小牧港からの輸送には、市と協定を結ぶＮＰＯ法人ピークエイドの代表で、総社市環境観光大使の野口健さんが携わりました。苫小牧市役所に送られた毛布は、厚真町、安平町、むかわ町の被災者にも配られました。

26日には毛布のお礼にと、苫小牧市から総社市に北海道胆振東部地方産の米（「ななつぼし」500キロ）が届きました。毛布のときと同様に野口さんが橋渡しを担い、秦地区の仮設住宅に輸送。米は市内2カ所の仮設住宅と、みなし仮設住宅の入居者を中心に配布されました。

ピークエイドからも、トイレットペーパーなどの支援物資が被災者に送られました。